

ウラジロ

概要

ウラジロ(ウラジロ科ウラジロ属 学名:Gleichenia japonica Spr.)は、本州中部以西の暖地に分布する常緑のシダ植物で、葉の裏が白く、ウラジロ(裏白)の名はこの特徴に因んだものです。

2枚の葉片の付け根から翌年葉柄が伸びて、新しい葉を広げ、毎年2枚の葉が段々に積み重なっていくことから、夫婦円満や子孫繁栄を意味する縁起ものです。このため、葉をお正月のしめ縄や鏡餅飾りに用います。



お正月のしめ縄

特徴・自生地

特徴: 葉は薄く、表面には艶があり、冬でも緑色です。

裏面は粉を吹いて白っぽくなっています。

毎年葉の先端から1本の葉柄を伸ばし、その先に2枚の葉を広げます。毎年2枚ずつ展開して3段ほどになり、茎は1.5~2mになります。

自生地: ヒノキ林など、比較的乾燥した林内に多く、のり面や伐採地など日当たりの良い場所にも群生します。



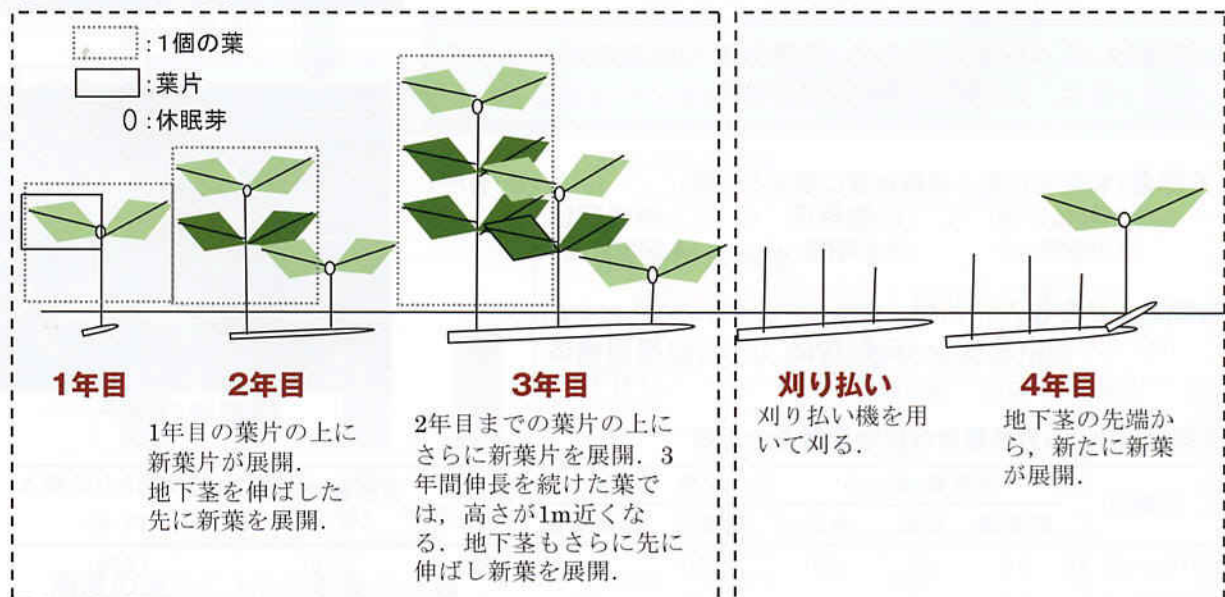
ウラジロの葉

生育のしかた

増殖は地下茎によることが多く、伸ばした地下茎の先から春に新しい葉を展開させます。葉は、2回羽状複葉で、1本の葉柄と対生に広がる葉片からなり、先端に休眠芽をつけます。

冬を越した葉は、春先に先端から葉柄を伸ばし、一对の葉片を広げます。

このように、1枚の葉は、1年に葉片を一对ずつ展開しながら、1個の葉が何年にもわたって生長を続けていきます。



ウラジロの生長及び増殖の模式図

刈り払いの模式図

管理方法

栽培歴	年数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
自然栽培	1年目												刈り払い
	2年目		刈り払い										収穫

効率よくウラジロを採るためのポイント

1. 作業効率を上げるためには刈り払いが効果的。
2. 刈り払いの時期は、冬期(ウラジロの新葉が発生する前の休眠期)が適している。
3. 間伐が行われているなど比較的明るい林分の活用が有効。(相対照度20%程度)

■ 刈り払いの効果に関する試験 ■

刈り払いの効果を見るため、作業程度の異なる前処理をした試験区で、労務量及び採取量の比較試験をおこないました。

試験区の概要

刈り払い区 (A)	刈り払いのみを行った
整理区 (B)	刈り払いに加え、灌木の除伐及び伐倒された間伐木の整理作業を行った
無処理区 (C)	刈り払い等の処理は行わなかった(放置)

《試験条件》

試験地: 田辺市龍神村柳瀬ヒノキ人工林(35年生)
 試験区: 1試験区につき5m×5m
 前処理時期: 2003年4月
 採取時期: 2003年11月

結果

前処理として、刈り払いのみで、作業効率や収益性が向上する効果が認められました。



刈り払い前



刈り払い後



採取時の様子

総労務量(前処理作業+採取作業に要する時間) 1a(約1畝)当たり
 (A)刈り払い区 < (B)整理区 < (C)無処理区
 (2.7時間/a) (3.8時間/a) (4.2時間/a)

1時間あたりの収入(1時間の労務がどれだけの収入になるか)
 (A)刈り払い区 > (B)整理区 > (C)無処理区
 (1,526円) (1,253円) (714円)

作業程度による労務量及び採取量調査の比較

試験区	労務量 (h/a)			枚数 (枚/a)		出荷率 (%)	労務量対効果 (秒/枚)	1時間あたりの収入 (円/h)
	前処理	採取	合計	規格内	出荷可能			
刈り払い区(A)	0.6	2.1	2.7	1,080	412	38	23.6	1,526
整理区(B)	1.9	1.9	3.8	1,136	476	42	28.7	1,253
無処理区(C)	0	4.2	4.2	876	300	34	50.4	714

■刈り払い適期に関する試験■

刈り払いの適期を探るため、刈り払いの時期の異なる試験区を設けて、採取量を比較しました。

試験区の概要

夏刈り区: 6月区、7月区、8月区、9月区
(2002年)
冬刈り区: 3月区(2003年)

《試験条件》

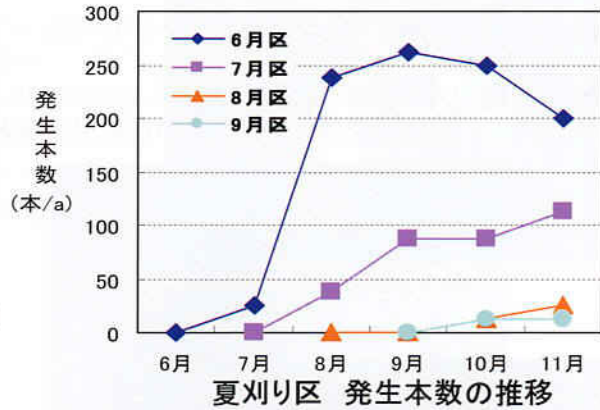
試験地: 田辺市中辺路町水上地内
(水上試験林内ヒノキ人工林 42年生)
試験区: 1試験区につき2m×2mを2箇所
刈り払い時期: 夏刈り区・・・2002年6～9月 冬刈り区・・・2003年3月
採取時期: 夏刈り区・・・2002年11月 冬刈り区・・・2003年11月

結果

刈り払いは新葉が発生する前の冬期(休眠期)が適していると考えられました。

出荷可能な枚数

3月区 > 6月区 > 7月区 > 8月区 > 9月区
(250枚/a) (125枚/a) (100枚/a) (25枚/a) (0枚/a)



刈り払い時期による採取量の比較

試験区	発生本数 (本/a)	規格内枚数 (枚/a)	出荷可能な枚数 (枚/a)	出荷率 (%)
夏刈り区 6月区	200	125	125	100
夏刈り区 7月区	113	100	100	100
夏刈り区 8月区	25	25	25	100
夏刈り区 9月区	13	0	0	0
冬刈り区 3月区	63	538	250	46

■生育に適した光環境に関する試験■

採取量が良好となる照度を明らかにするため、明るさの違う林分において採取量を比較しました。また、連年採取による収穫量の変化も調査しました。

試験区の概要

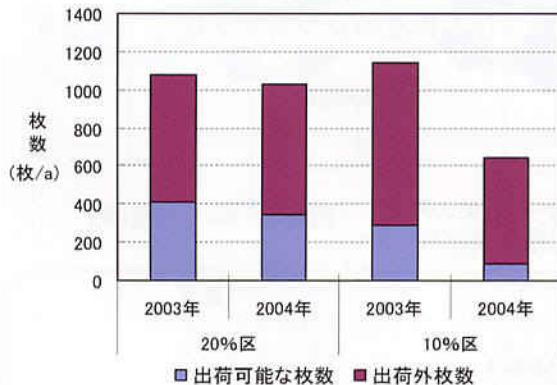
試験区	相対照度(%)	備考
20%区	20.3	2003年4月刈り払い実施
10%区	10.7	〃

《試験条件》

試験地: 田辺市龍神村柳瀬ヒノキ人工林(35年生)
試験区: 1試験区につき5m×5m
採取時期: 2003年11月及び2004年12月

結果

間伐により相対照度20%程度の林分を活用することが有効と考えられました。



照度の違いによる採取量の比較

出荷可能な枚数

20%区(412枚) > 10%区(288枚)

2年目の収穫量

20%区(1.5割減少) > 10%区(7割減少)

照度の違いによる採取量の推移の比較

試験区	規格内枚数 (枚/a)	出荷可能な枚数 (枚/a)	出荷率 (%)
20%区 2003年	1,080	412	38
20%区 2004年	1,028	348	34
減少率(%)	5	16	11
10%区 2003年	1,114	288	26
10%区 2004年	644	88	14
減少率(%)	42	69	47

※相対照度とは?・・・光を遮るものがない全天下の照度を100%とし、これと比較した場合の光の強さを表したものです。

出荷方法

採取時期: 10月下旬～11月下旬

採取方法: 葉長が10～35cm程度で、傷や欠け、枯れのない綺麗な1段目の葉を採取します。
約1cm程度軸を残して切り取り、乾燥しないように布やビニール袋に入れて持ち帰ります。

選別: JAに出荷する場合は、葉を規格ごとに選別し、20枚を1束として5束1組で出荷します。

保管: 出荷時期まで乾燥しないように黒いビニール袋などに入れて、冷暗所で保管します。

出荷: JAの出荷は12月上旬から始まります。
産品販売所でも12月中旬あたりから店頭並びます。



葉片の大きさによって規格ごとに分類



葉片の一部が欠けて商品価値のないもの

収穫量・価格

収穫量: 300～400枚/a

販売: 販売価格・・・6～10円/枚
年間収益・・・18,000～40,000円/a

販売先: JA(紀州中央、紀南、みくまの)、各産品販売所



林内に自生しているウラジロの様子

参考資料

「ウラジロの採取効率向上に向けた刈り払いの効果の解明」加藤万季他
和歌山県農林水産総合技術センター研究報告 第8号 2007

選別規格例

規格	長さ(cm)
特特大	35～40
特大	30～35
大	25～30
中	20～25
小	15～20
極小	10～15

注)規格の区分は、出荷先により異なる。

☆連年採取の注意☆

採取時に全ての葉を採取してしまうと、株が衰弱し、数年で採取できなくなってしまう。

1㎡あたり10本程度のウラジロを残して採取するようにします。

和歌山県農林水産総合技術センター林業試験場

〒649-2103 和歌山県西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL 0739(47)2468 FAX 0739(47)4116

HPアドレス <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/006/006.htm>

発行:平成20年3月